

【臨床・研究】

二酸化炭素ガス送気による大腸
内視鏡検査の臨床的検討

いずみ 泉 あき 明 お 夫

キーワード：二酸化炭素ガス送気，大腸内視鏡検査

要 旨

大腸内視鏡検査の受容性を高めるためには検査に伴う苦痛を最小限にすることが必要である。今回、検査中、検査後の腹部膨満、腹痛を緩和する目的で二酸化炭素ガス送気による大腸内視鏡検査を施行、その安全性と、有用性と経済性を検討した。対象は2013年11月から2014年2月までに当院で施行した大腸内視鏡検査150例（男性80例，女性70例）。平均年齢は67.3才（男性67.7才，女性66.8才）。検査所要時間は11.3±4.6分であった。循環動態は血圧，脈拍，呼吸状態は呼吸数，経皮酸素濃度（SpO₂），呼気炭酸ガス濃度（ETCO₂）にてモニタリングしたが，検査中，検査後とも大きな変動は認めなかった。検査後のアンケート調査では，検査後の腹痛は「なし」が79%，腹部膨満感は「なし」が64%，空気送気に比べ「楽だった」が62%と回答した。一件あたりの炭酸ガスのランニングコストは86円であった。大腸内視鏡検査における二酸化炭素ガス送気は安全で被験者の苦痛を減らすのに有用であると考えられた。

はじめに

現在，大腸内視鏡検査における送気には空気が一般的に用いられているが，被験者が検査中，検査後の腹痛や腹部膨満感を訴えることが少なくない。近年，消化器領域の内視鏡治療では腸管吸収性の高い二酸化炭素ガス送気を用いることが多くなってきたが，通常内視鏡検査では検査中に ET-

CO₂をモニタリングする必要がある，その測定器機が高価であること，二酸化炭素ガスの保険適応がないことなどの理由で普及していない。

今回，スクリーニング検査における二酸化炭素ガス送気による大腸内視鏡検査の有用性，安全性と経済性を検討したので報告する。

対象と方法

1 対象

2013年11月から2014年2月までに当院にてスクリーニング目的で施行した大腸内視鏡検査症例